

公開実用 昭和59—100458

10 日本国特許庁 (JP)

11 実用新案出願公開

12 公開実用新案公報 (U)

昭59—100458

51 Int. Cl.³
A 63 B 57 00

識別記号
府内整理番号
6547-2C

43 公開 昭和59年(1984)7月6日

審査請求 有

(全 頁)

54 ゴルフ用ティー

八尾市植松町4丁目8の16

55 出願人 豊藏正一

21 実願 昭57-194532

八尾市植松町4丁目8の16

22 出願 昭57(1982)12月21日

56 代理人 弁理士 安田敏雄

72 考案者 豊藏正一

明細書

1. 考案の名称

ゴルフ用ティー

2. 実用新案登録請求の範囲

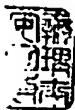
1. ゴルフ用ティーは、地面に差込まれる差込部と、地面より突出してその頂部にボールを載置する載置部とに2分割され、両者は弾性部材を介して離脱不能にかつ折曲自在に連結されていることを特徴とするゴルフ用ティー。

3. 考案の詳細な説明

本考案は、ゴルフ用ティーに関する。

従来のゴルフ用ティーは、硬質合成樹脂等で一体成形されたものであつたから、ティークリップにおいてティーを地面に突き立て、その頂部にボールを載置し、クラブで該ボールを打つと、ティーまでもたたくことになり、ティーは地面より抜き出てその近傍にころがるものであつた。

しかし、特に初心者においては、該ティーはボールと共に遠方まで飛ばされ行方不明になる場合が多く、ティーを捜すために無駄な時間を費やし、



No. 2

他のプレイヤーに迷惑をかけることが多々生じ、
プレイの楽しさを半減させていた。

また該ティーは、クラブの衝撃力により折損する
ことが多く、かつクラブを損傷させる原因とな
っていた。

そこで、本考案は、上記問題点に鑑みて案出さ
れたものであり、クラブの衝撃力によつても折損
することがなく、かつ飛散することのないゴルフ
用ティーを提供することを目的とする。従つて、
その特徴とする処は、ゴルフ用ティーは、地面に
差込まれる差込部と、地面より突出してその頂部
にボールを載置する載置部とに2分割され、両者
は弾性部材を介して離脱不能にかつ折曲自在に連
結されている点にある。

以下、本考案の実施例を図面に基き詳述する。

第1・2図に示すものは本考案の第1実施例で
あり、ゴルフ用ティー(1)は、地面に差し込まれる
差込部(2)と、地面より突出してその頂部(3)にボー
ルを載置する載置部(4)とに2分割されている。差
込部(2)と載置部(4)とは軸心に直交する平面で接当

している。載置部(4)の頂部(3)にはボールを載置するための凹部(5)が設けられている。載置部(4)の軸心部に芯材挿通孔(6)が貫通して設けられている。差込部(2)の上部にも前記芯材挿通孔(6)に連通する芯材固定孔(7)が設けられている。この芯材固定孔(7)に下端がピン(8)を介して固定された芯材(9)が、芯材挿通孔(6)に摺動自在に挿通されている。芯材(9)の上部は径大とされその径大部(10)下面と、芯材挿通孔(8)の下端の径小部(11)の上面との間に圧縮スプリング(12)が介在され、載置部(4)は、該スプリング(12)により下方に付勢されている。従つて、載置部(4)下端面と差込部(2)上端面は弾接し、両者(2)(4)は同軸心に保持されている。

芯材(9)はゴム等の弾性部材から成り、上部の径大部(10)の頂面は凹部(5)内に突出し、該頂面に所定深さのスリット(13)が設けられている。この芯材(9)の径大部(10)には楔(14)の脚部(15)が埋設され、弾性変形自在なヒンジ(16)を介して楔本体(17)が前記スリット(13)に嵌合すべく設けられている。楔本体(17)の断面はV形に形成されている。

No. 4

上記本考案の第1実施例によれば、第3図に示すようにティーグランド(4)にティー(1)を差し込むとき、まず頂部(3)にボール(8)を載置し両者を手で強く圧接しつつ、差込部(2)をグランド(4)に差し込む。このとき、ボール(8)の下面が楔本体(7)を押圧し、楔本体(7)はスリット(6)に押し込まれる。しかして芯材(9)の径大部(10)上部は楔本体(7)により拡開され、径大部(10)の外周面と芯材挿通孔(6)の上部のテーパー部(11)とが圧接され、芯材(9)と載置部(4)とが固定される。しかもスプリング(12)により載置部(4)と差込部(2)とは面接当しているので、ティー(1)をグランド(4)に差込むに際し、載置部(4)と差込部(2)との接合部がグラグラすることなく、差込みに支障をきたさず、従来の一体物のティーと変ることなく差しむことができる。

次に、第4図に示すように、クラブでボールをたたくと、ティー(1)の載置部(4)までもたたくことになる。このとき載置部(4)は衝撃力(13)を受け、その瞬間、楔本体(7)はボールの自重による押圧力を解除されると共に、衝撃力(13)及びヒンジ部(14)の反

発力によりスリット(9)から抜け出し、径大部(10)は縮小するので、径大部(10)は芯材挿通孔(6)に没入自在となる。而してティー(11)は衝撃力(4)によりグラント(1)から抜けようとするが、ティー(11)は載置部(4)と差込部(2)とに2分割されているため、載置部(4)は芯材(9)を介して折曲されることになる。このように載置部(4)が分割部で折曲されようとするとき芯材(9)の径大部(10)は挿通孔(6)に没入して上記折曲を助ける。そして載置部(4)はその後首振り運動を行ない、該首振り運動が減衰すると共に、スプリング(12)の反発力により載置部(4)下面は差込部(2)上面に接当し、芯材(9)の頂部は凹部(5)内に突出し、元の状態に復元する。

第5図に示すものは、楔(1)の変形例であり、脚部(1)と本体(1)とが傾斜面接合して、ヒンジ部(6)の折曲を容易としている。

第6図に示すものは、凹部(5)の内面にヒンジ部(6)を介して円錐形の楔本体(1)が設けられたものであり、芯材(9)の頂部はコレットチャック状にスリットが入れられている。



No. 6

第7図に示すものは、本考案の第2実施例であり、載置部(4)下面と差込部(2)の上面とがV形状の嵌合で接当しているものである。このV形突起部及びV形溝部は環状に設けられている。このように凹凸嵌合させることにより、両者の接合がより確実となり、ティー(1)をグランド(6)に差し込むときグラつかない。

第8図に示すものは、本考案の第3実施例であり、載置部(4)と差込部(2)の接合部外周に、固定用スリープ(22)が上下移動自在に外嵌され、スリープ部を上方移動させると載置部(4)と差込部(2)の折曲は防止され、スリープ部から手を離すと、接合部外周はテーパ状に成形されていることから、スリープ部は自然落下し、両者は折曲自在となる。この場合、芯材(9)は両者の折曲を許容し、かつ離反を防止するだけの機能を有しておればよい。

尚、本考案は、上記実施例に限定されるものではない。

本考案によれば、ティーの折損が防止され、かつ、ティーの飛散による紛失が防止されるもので



No. 7

ある。

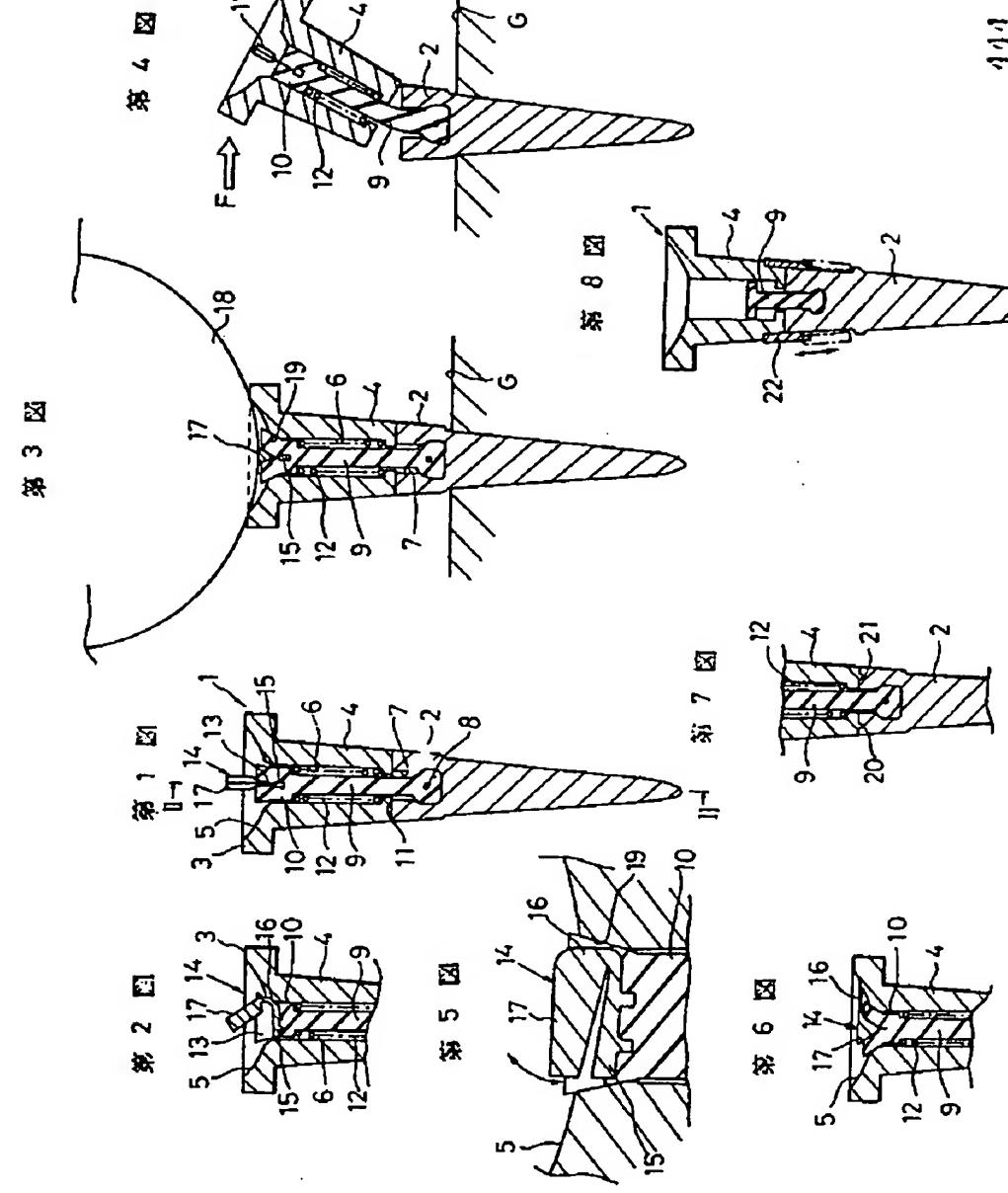
4. 図面の簡単な説明

図は本考案の実施例を示し、第1図は第1実施例の断面図、第2図は第1図II-II線の要部断面図、第3図及び第4図は作用説明用断面図、第5図及び第6図は楔の変形例を示す断面図、第7図は第2実施例の断面図、第8図は第3実施例の断面図である。

(1) … テイー、(2) … 差込部、(4) … 載置部、(9) … 芯材(弹性部材)。

実用新案登録出願人 豊 蔵 正 一
代理 人 弁理士 安 田 敏 雄





実用59-100458
代理人 柴田敏雄

44.1